



令和6年度

栗原版デュアルシステム 第1回 運営委員会

宮城県一迫商業高等学校



昨年度
アルバム



学校HP



栗原版デュアルシステム運営委員会設置要綱

(趣 旨)

第1条 この要綱は、文部科学省からの専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進事業による指定終了後の平成20年度以降も、宮城県一迫商業高等学校（以下「実施高校」という。）において、「日本版デュアルシステム」（以下「栗原版デュアルシステム」という。）を継続実施することに伴い、「栗原版デュアルシステム」の実施のために設置する運営委員会に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 栗原版デュアルシステム運営委員会（以下「運営委員会」という。）は、栗原版デュアルシステムの円滑な実施運営に資することを目的とする。

(所掌事務)

第3条 運営委員会は、次の事務を所掌する。

- 1 栗原版デュアルシステムの運営に関する指導及び助言
- 2 栗原版デュアルシステムの運営に関する評価
- 3 その他栗原版デュアルシステムの運営に関する必要事項

(構 成)

第4条 運営委員会は、実施高校の教育に専門的知識を有する者、学識経験者、受入企業の代表者、栗原地域の産業団体関係者、産業振興及び雇用行政担当者等、別表に掲げる者をもって構成する。

(組 織)

第5条 運営委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 1 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

(会 議)

第6条 運営委員会は、必要に応じ委員長が招集する。

- 1 委員長は、運営委員会を代表し、会務を主催するとともに、運営委員会の議長となる。
- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。
- 3 運営委員会には、必要に応じ、別表に定める者以外の出席を求めることができる。

(事 務 局)

第7条 事業の円滑な実施を図るため、事務局は実施高校に置く。

(補 則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は運営委員会で協議し別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成20年9月25日から施行する。

5 議事

(1) 栗原版デュアルシステム概要 及び 令和5年度第2回栗原版デュアルシステム運営委員会より

(ア) 栗原版デュアルシステム概要

1 概要

栗原版デュアルシステム

地域産業界と連携を図りながら職業人として地域社会に有為な人材を育成することを目的とし、科目「総合実践」の中の「販売実習」「起業家研究」「企業実習」を中心とする取組である。

2005年（平成17年）に文部科学省より研究指定を受けた地域（学校）は20校あり、本校もその中の一つです。宮城県栗原地域で実施するため、「栗原版」デュアルシステムと命名しました。

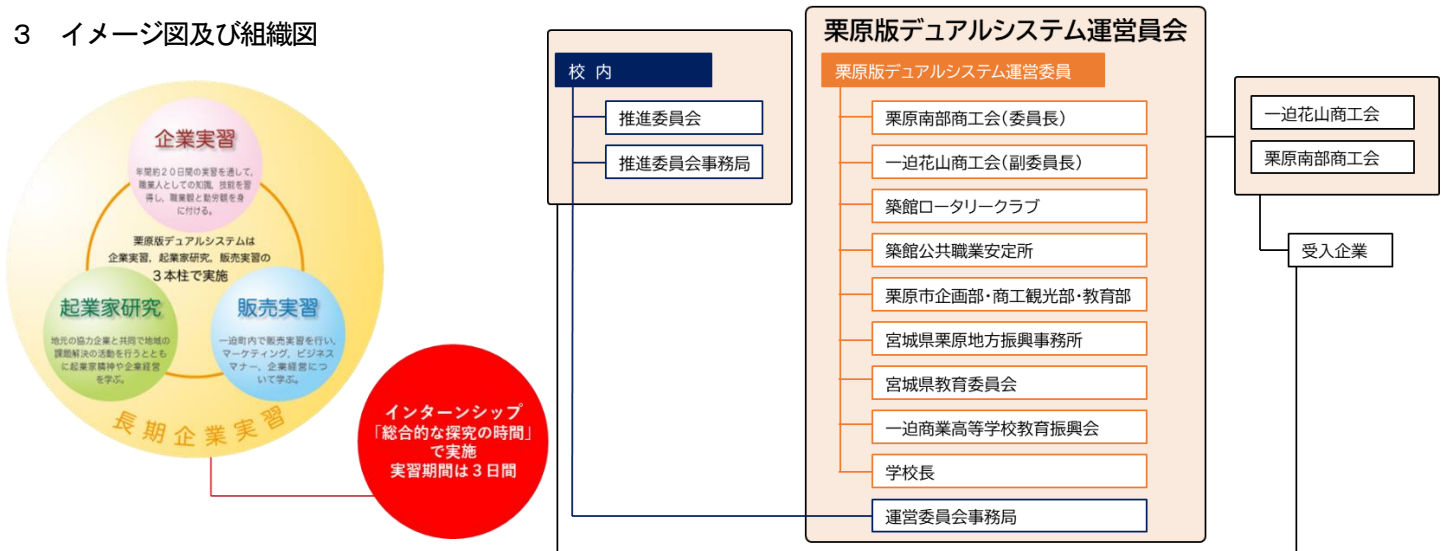
“地域産業界と連携を図りながら共同で将来有為な人材を育成すること”を目的とし活動を行っており、本校は、地域社会や県の協力のもと継続して活動し、平成25年には文部科学大臣表彰を受けました。

2 ねらい

【職業観、勤労観の育成】 **【地域の有為な人材の育成】** **【地域と連携し、地域活性化の一助とする】**

1年次は、先輩方の学習報告会への参加を通じて、職業観の種を植え、2年次でインターンシップの体験を通し、芽吹かせています。この取り組みにより、より効果的な職業観や就業観を育成し、地域に貢献できる人づくりを行っています。

3 イメージ図及び組織図



4 具体的取組

1 学年（見る・聞く）
1 2月 インターンシップの校内発表会を見る
1 月 「栗原版デュアルシステム」の報告会を見る
2 月 1・2学年拡大社会人講話による講話を聞く
↓
2 学年（実践する・進路を見つける）
7 月 インターンシップ受入事業所について調べ学習をする
9 月 インターンシップを体験する
1 2月 社会人講話による講話を聞く
1 2月 インターンシップについて校内で発表する
1 月 「栗原版デュアルシステム」の報告会を見る
2 月 1・2学年拡大社会人講話による講話を聞く
↓
3 学年（就職・進学へ向けて）
6 月 「販売実習」「起業家研究」「企業実習」の実習～11月
7 月 接客マナー講習会を聞く
8 月 社会人による面接指導
9 月 社会人による講話を聞く
1 月 「栗原版デュアルシステム」について報告する

【インターンシップ】
科目「総合的な探究の時間」で実施。実習期間は3日間

【企業実習】
年間15日間程度の実習を通して、職業人としての知識、技能を習得し、職業観と勤労観を身に付ける。

【販売実習】
一迫地区で販売実習を行い、マーケティング、ビジネスマナー、企業経営について学ぶ。

【起業家研究】
地元の協力企業と共同で地域の課題解決の活動を行うとともに起業家精神や企業経営を学ぶ。

(イ) 令和5年度 第2回栗原版デュアルシステム運営委員会より

令和5年度 第2回栗原版デュアルシステム運営委員会より

【企業実習】

デュアルの大きな魅力（柱）は、「企業実習」ではないか。
長期インターンという高校生としてはどこもやっていない取り組みにもっと力をいれるべき。
インターンシップとの違いが、“期間だけ”にならないように、中身をもっと詰めていくべき。

今年度は、週3単位から4単位への増単に伴い、実習回数が13回から30回へ増加する予定です。ご助言の通り、「期間の違い」という部分にフォーカスされることが多くなっています。1回ごとのフィードバックや職業観の変容、長期インターンによる生徒の社会性・人間性の成長を促し、見取る指導に重点を置いてまいります。

【販売実習】

売上目標の設定を明確にするとよいのではないか

昨年度は、売上目標の設定を行っておりませんでした。ご助言いただき、今年度は実施することにいたします。しかし、第1回の販売会は、生徒にとっては初めての販売実習であり、お客様の数や売れ行きの予測が困難なことが挙げられます。そのため、第1回の販売会は、仕入れた商品の「完売」を目標に取り組んでいきます。第2回では、第1回に売上や客層、年齢や時間帯の売れ行きなどのデータを十分に収集し、そのデータを元に売上目標の設定や仕入マネジメントにつなげる指導をおこなっていきます。

【起業家研究】

起業する上で、どれくらいの利益を出す必要があるのか、銀行でどれくらい借りられるのか、起業時の資金面などを調べて銀行へ伺うことも実施してみてもどうか。

いただいたアドバイスを元に、今年度は6月に七十七銀行様より起業に関する講話をいただくことに致しました。詳細については、後ほど今年度の活動計画にてお話いたします。

市役所では、「ふるさと納税」の返礼品に困っている。どのような品を返礼品に採用するか。
栗原市ならこれ！という返礼品がほしい。

7月以降は、3つのグループに分かれて各自取り組むこととしております。その1つに「ふるさと納税の返礼品」というグループを設立し活動を行う予定です。今年度の学習報告会にて案の提示、もしくは早期にお時間を頂戴し市（部）に提案させていただければ幸いです。

また、本校商業研究部では現在、地域の「持続可能性」をテーマに活動しております。本部活動でもふるさと納税の返礼品について現在取り組みはじめております。

(2) 令和6年度栗原版デュアルシステム実施計画と進行状況

(ア) インターンシップ

令和6年度 第2学年 科目【総合的な探究の時間】「インターンシップ」 活動計画

目的

- (1) 人間としての在り方、生き方について生徒が自ら考え自覚を深めて自己実現を図る資質や能力を育てる。
- (2) 職場における、実地的な知識や技術・技能に触れることにより、学習意欲を喚起し、主体的な職業選択能力や高い職業意識を育成する。
- (3) 勤労の尊さや喜び、楽しさや厳しさを学び、社会における自己の役割や責任・自覚を促す。
- (4) 総合的な探究の時間で身に付けたことを他の教科でも活かし、自己の能力を高める。

●デュアルシステムでの生徒への定着目標

◎地域に求められる人材を育成する

[正しい職業観] [勤労観の育成・コミュニケーション能力] [実践的スキル・技能・起業家的発想]
[社会人としてのマナー]

●具体的目標（地域に求められる人材育成を目指して）

◎「企業」「職業」に関する視野を広げる

◎「仕事」に向かう姿勢の深化

- 1 実施科目 2学年 「総合的な探究の時間」 1単位
- 2 対象生徒 2学年 29名
- 3 担当教員 総務進路部教員、2学年所属教員
- 4 実施期間 令和6年9月3日 から 令和6年9月5日 （インターンシップ3日間）
授業：週1時間（水曜5時間目）

5 今年度の活動計画

NO.	月日	校時	内容	実施場所
1	4月17日	5	オリエンテーション・探究の時間について・インターンシップ先希望調査	選択教室
2	4月24日	5	自己理解 自分史① 誕生～幼稚園	選択教室
3	5月1日	5	自己理解 自分史② 小学校	各教室
4	5月8日	5	自己理解 自分史③ 中学校	各教室
5	5月22日	5	自己理解 自分史④ 高校入学～現在	各教室
6	5月29日	5	自己理解 自分史 まとめ 【レイアウト】	各教室
7	6月5日	5	自己理解 自分史 まとめ 【下書き】	各教室
8	6月12日	5	自己理解 自分史 まとめ 【清書完成】	各教室
9	6月19日	5	インターンシップに向けて① 今後の予定を確認、企業調べ	第1情報処理室
10	6月26日	5・6	分野別進路ガイダンス	各教室等 外部依頼
11	7月3日	5	インターンシップに向けて② 電話でのアポイントメントの取り方	文書処理室
12	7月10日	5	インターンシップに向けて③ 自己紹介書作成	第1情報処理室
13	7月17日	特編	インターンシップに向けて④ 事前打ち合わせに向けての確認	第1情報処理室
夏休み前～夏休み中			アポイントをとり、事業所と事前打合せ	職員室
14	8月23日	5	インターンシップに向けて⑤ 講演「基本的な姿勢について」	視聴覚室 外部依頼
15	8月30日	5	インターンシップに向けて⑥ 日誌の書き方、その他最終確認	文書処理室 進路主事に依頼
9/3～9/5 インターンシップ				
17	9月11日	5	インターンシップを終えて① お礼状仕上げ・発送	文書処理室
18	9月25日	5	インターンシップを終えて② 学んだことをまとめる	文書処理室
19	10月9日	5	発表（報告書）準備 スライド作りのポイント	第1情報処理室
20	10月16日	5	発表（報告書）準備	第1情報処理室
21	10月30日	5	発表（報告書）準備	第1情報処理室
22	11月6日	5	発表（報告書）準備	第1情報処理室
23	11月13日	5	発表（報告書）準備	第1情報処理室
24	11月15日	5	インターンシップ報告会 発表練習	第1情報処理室
25	11月20日	5	インターンシップ報告会 発表練習	第1情報処理室
26	12月4日	5	インターンシップ報告会 最終リハーサル	各教室
27	12月18日	6	インターンシップ報告会	各教室
28	12月20日	5	自己理解② 企業・上級学校について① 企業・学校調べ	第1情報処理室
29	1月15日	5	自己理解② 企業・上級学校について② 企業・学校調べ【プレゼン準備】	第1情報処理室
30	1月22日	5	自己理解② 企業・上級学校について③ 企業・学校調べ【プレゼン完成・発表準備】	第1情報処理室
31	2月5日	5	自己理解② 企業・上級学校について④ 企業・学校調べ【発表会】	第1情報処理室
32	1月31日	5	進級前講話（本田さんから）	文書処理室
33	2月12日	5	3年生からの話	視聴覚室
34	2月19日	5・6	進路別ガイダンス	外部依頼

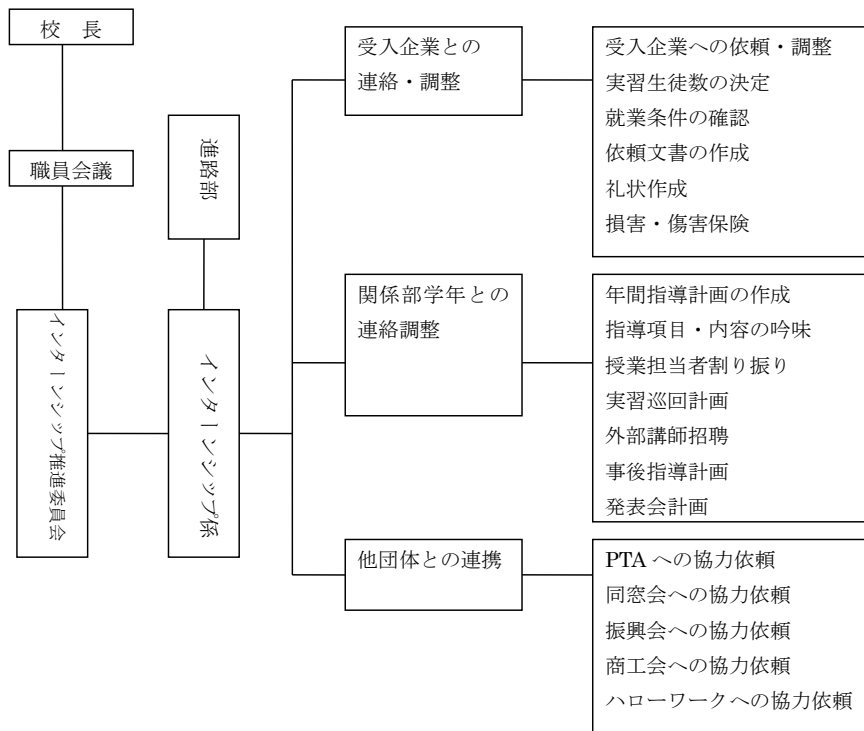
6 インターンシップ推進委員会

教頭		加藤 章
事務室長		二階 堂
総務・進路部	進路指導主事	佐々木達
	担当	後 藤
	担当補助	多 田
商業科	流通経済科長	齊 藤
	情報処理科長	牛 木

7 係分担

担 当 等		業 務 内 容
インターンシップ係	後藤・2学年	授業計画・渉外
担任・副担任	後藤・加藤・多田・甲斐・佐々木・岩渕	授業時生徒掌握・出欠の記録
各授業担当	2学年・外部講師	インターンシップ係の割り振りによる
事業所担当	全職員	事前研究・実習・まとめ・評価

8 係分担組織図



9 協力企業 全18事業所 (敬称略・順不同)

事業所名	人数	事業所名	人数
栗原市立築館幼稚園	4名	丸江スーパー岩ヶ崎店	2名
丸江スーパー迫店	2名	株式会社イノアック	1名
ケーズデンキ築館店	4名	栗原市役所	1名
JR 東日本テクノサービス小牛田営業所	2名	ジオマテック (株) 金成工場	1名
宮城トヨタ自動車MTG 築館	1名	栗原食肉株式会社	1名
くりはら葬儀社築館店	1名	栗原中央病院 (看護師)	1名
ファッションセンターしまむら築館店	1名	株式会社北光	1名
自衛隊宮城地方協力本部栗原地域事務所	2名	岩出山保育所	1名
ヨークベニマル築館店	2名	宮城福祉会特別養護老人ホーム山王	1名

(イ) 企業実習

令和6年度 第3学年「総合実践」企業実習 活動計画

目的

- (1) 栗原地域の特性を踏まえ、地域産業と連携し、職業についての知識や技能を身に付ける。
- (2) 地域産業の担い手となる将来有能な人材の育成を目指して現場での実習を実施し、望ましい職業観や勤労観の醸成を図る。

- 1 実施科目 3学年 「総合実践」4単位
 - 2 対象生徒 3学年 10名
 - 3 担当教員 商業科 伊藤 貴章、加藤 幸禎、佐々木 義成、齊藤 竜也
 - 4 実施期間 令和6年4月12日 から 令和7年1月31日 まで (1回の実習時間は2～3時間程度)
- 実習日

回	月	日	回	月	日	回	月	日	回	月	日	回	月	日
①	6月	4日	②	6月	7日	③	6月	11日	④	6月	21日	⑤	6月	25日
⑥	7月	2日	⑦	7月	5日	⑧	7月	9日	⑨	7月	12日	⑩	8月	23日
⑪	8月	27日	⑫	8月	30日	⑬	9月	3日	⑭	9月	6日	⑮	9月	10日
⑯	9月	24日	⑰	9月	27日	⑱	10月	1日	⑲	10月	4日	⑳	10月	8日
㉑	10月	15日	㉒	10月	25日	㉓	10月	29日	㉔	11月	1日	㉕	11月	5日
㉖	11月	8日	㉗	11月	12日	㉘	11月	19日	㉙	11月	22日	㉚	12月	3日
㉛	12月	6日												

- 5 受入事業所 全7事業所 (敬称略・順不同)

事業所名	受入人数	事業所名	受入人数
野口建設株式会社	2名	イワサキ通信工業株式会社	1名
栗原市立築館幼稚園	2名	ケーズデンキ 築館店	1名
宮城福祉会特別養護老人ホーム山王	1名	大成エレクトロニクス株式会社 宮城工場	1名
有限会社 もちっ小屋でん	1名		

- 6 昨年度の振り返り (令和5年度第2回デュアルシステム運営委員会より)

- ・インターンシップとの違いを適切にお伝えできず、趣旨が正しく伝えられなかった。
→教員が事前に事業所へ出向き、企業実習の趣旨など詳細に説明をおこなう。
- ・年間を通じて事業所との連携を密にすることで、生徒への適切なアドバイスなど効果的なフィードバックにつなげる。

- 7 過去5年間の受入事業所一覧 (令和元年度～令和5年度) (敬称略・順不同)

栗原市一迫総合支所	イエローハット築館店	エポカ21
イワサキ通信工業株式会社	栗原市立一迫幼稚園	自衛隊宮城地方協力本部栗原地域事務所
ケーズデンキ築館店	ビックハウス築館店	北王商事株式会社
南部屋印刷株式会社	薬王堂一迫店	栗原市山王デイサービスセンター
自衛隊栗原地域事務所	太陽テキスタイルサポート(株) 宮城工場	成田製作所
一迫郵便局	J A農機センター	丸江スーパー
有限会社 もちっ小屋でん	ビッグエコ	パレット
伊藤ハウジング	エスティシー	ビューティサロンニューひらの
フレスポ築館店	美容室 chou chou	ネットヨタ仙台株式会社 築館店
栗原市立一迫保育所	有限会社喜久乃家	

(ウ) 販売実習

令和6年度 第3学年 科目〔総合実践〕「販売実習」班 活動計画

目的

マーケティングや接客マナー等について「実際に商品を仕入れ販売をして利益計算を行う作業」とおして、実務として体験させ、自ら考え行動する能力と態度を養い、さらに異世代とのコミュニケーションをおして勤労観や職業観を育成することを目的とする。

- 1 実施科目 3学年 「総合実践」4単位
- 2 対象生徒 3学年 10名
- 3 担当教員 商業科 千葉 敬太、加藤 直裕、門脇 公喜
- 4 実施期間 令和6年4月12日 から 令和7年1月31日 まで
- 5 今年度の活動計画（概要）

販売実習（名称）	日付	場所	テーマ
第54回宮城ブロック大会 in 栗原 「たからいち」	6月29日(土)	みちのく風土館	宮城県高校生の開発商品で宮城の魅力を伝える。
きてけさいん①（本校主催販売会）	10月11日(金)	あやめの里	
きてけさいん②（本校主催販売会）	11月8日(金)	あやめの里	

〔販売会に向けた活動一覧〕

○販売会前の活動

販売商品の選定	各販売実習のテーマに沿った商品の選定を行います。 当日の来場者の年齢層などを想定し、ターゲットを絞った商品の仕入戦略をたてます。
仕入先への連絡・交渉	取り扱い商品決定後は、各取扱店に生徒がアポイントメントをとります。 これまで商業科目で培ったコミュニケーション能力を活かし、販売実習の趣旨や目的を的確に伝達します。
チラシの作成	パッと見て目に留まるデザインはもちろん、価格などの必要事項を漏れなく記載し、新聞の折り込みチラシとして地域に配布します。
POP広告の作成	個々の商品の魅力を余すことなく伝えるPOP広告を作成します。 生徒らしい感性や表現でデザインされたPOP広告は毎年、お客様からの評判もよいものとなっています。

○販売会当日の活動

接客	当日は生徒が前に出て、呼び込みから商品紹介まで通して接客します。
レジ打ち	お会計は教員が横に立ち、金銭の確認をおこないながら、一連の流れは生徒がおこないます。会計はAir レジを導入し、簡単かつスピーディーな会計を実現しています。

○販売会後の活動

売上集計	Air レジと同期し、自動で集計されるマクロ(プログラム)を組み、実行しています。
------	---

6 昨年度の振り返り（令和5年度第2回デュアルシステム運営委員会より）

- ・地域イベントへの参加について、高校生でも出店可能なイベント情報や参加へのお声かけをいただきたい。

(エ) 起業家研究

令和6年度 第3学年 科目【総合実践】「起業家研究」班 活動計画

目的

- (1) 産業界から求められる人材の育成を図る。
集団で課題を解決するなど、コミュニケーション能力の向上に努める。
- (2) 地域社会との関わりを持ち、学校から社会への円滑な移行を目指す。
社会との関わりの中で、生徒の自己有用感を高める。社会で自己を発揮できる自信を身に付けさせる。
- (3) 学習したことを地域社会に還元し、生徒の学習意欲の向上につなげる。
学校で学んだことを地域社会で役立て、社会から学んだことを、校内の学習活動に生かす。

- 1 実施科目 3学年 「総合実践」 4単位
- 2 対象生徒 3学年 13名
- 3 担当教員 商業科 伊藤 孝紘、牛木 雅也、渡邊 もも
- 4 実施期間 令和6年4月12日 から 令和7年1月31日 まで
- 5 今年度の活動計画（概要）

月	活 動 内 容		
4月	・地域散策（地域の散策を通して、地域の魅力や課題を発見する。）		
5月	・SDGsから探るビジネスプラン（社会の課題に主体的に取り組む態度と創造性を養う。）		
6月	・起業に関する講話（七十七銀行より） 金銭面や起業家の実態、成長幅や倒産数などについて		
7月	A：ふるさと納税の返礼品	B：ビジネスプランの立案	C：イベント運営・開催
8月			
9月	ふるさと納税の返礼品について、探し・創り・提案することを活動として行っていきます。	栗原市の起業家からお話を伺ったり、自分が考えるビジネスプランについて、より具体的に掘り下げ、立案する。	地域のイベント運営補助や、栗原市内で開催されたことのないイベントの開催などを企画します。
10月			
11月			
12月			
1月	・活動発表		

6 昨年度の振り返り（令和5年度第2回デュアルシステム運営委員会より）

昨年度は、地域おこし協力隊からご助力いただき活動してきた。地域の活性化を目標にその地で活動する方々の熱意や創造性について触れることができた一方で、生徒の考えや発想を引き出す場面やそれを形にする活動が少なく、偏りがでてしまっていた。“起業家研究”班として、起業に関する知識や生徒の発想を引き出し形にする場をもっと設けることが今後の活動に求められていることであると考えている。次年度は、金融機関や地域の起業家と連携しつつ、生徒の主体的な活動を展開していきたい。

6 報 告

令和5年度進路内定先（令和6年3月31日現在）

●就職

-栗原市内（8名）

ナブコトート株式会社（2） 株式会社勝野製菓宮城（1） 東北部品株式会社（1）
株式会社東北イノアック築館工場（1） 株式会社クックガーデン（1）
HOYA株式会社ペンタックスライフケア宮城事業所（1）
イワサキ通信工業株式会社（1）

-県内（3名）

株式会社エコプラス（1） 株式会社アルファス計装（1） トヨタ自動車東日本株式会社（1）

-県外（2名）

アイエイチロジスティックサービス株式会社（1） 株式会社共立メンテナンス（1）

-公務員（0名）

-縁故・自営（0名）

●進学

-大学（2名）

東北学院大学（1） 石巻専修大学（1）

-短大（0名）

-公共職業能力開発施設等（0名）

-専門（専修）学校（15名）

宮城農業大学校（1） 花壇自動車大学校（3） 宮城調理専門学校（4） 東北電子専門学校（2）
仙台大原簿記情報公務員専門学校（1） 東北ヘアモード学院（1）
仙台デザイン&テクノロジー専門学校（1） 仙台こども専門学校（1） 仙台医療福祉専門学校（1）

在籍数（30名）	希望者数	内定者数	受験中	未決定	決定率
就職	13	13	0	0	100.0%
進学-大学	2	2	0	0	100.0%
-短大	0	0	0	0	-
-専門(専修)学校	15	15	0	0	-
合計	30	30	0	0	100.0%



校訓

誠実 自律 奉仕

(別紙1)

第1学年		第2学年		第3学年											
流通経済科	情報処理科	流通経済科	情報処理科	流通経済科			情報処理科								
現代の国語 (2)		国語表現 (3)		論理国語 (4)											
言語文化 (2)															
地理総合 (2)	公共 (2)									歴史総合 (2)					
数学Ⅰ (3)	数学Ⅰ (2)														
科学と人間生活 (2)		化学基礎 (2)		数学A (3)											
体育 (2)		体育 (2)		体育 (3)											
保健(1)		保健(1)													
英語コミュニケーションⅠ (3)		英語コミュニケーションⅠ (2)		音楽Ⅰ (2)											
英語コミュニケーションⅠ (3)		家庭基礎 (2)		論理・表現Ⅰ (2)											
ビジネス基礎 (2)		マーケティング (3)	財務会計Ⅰ (4)												
簿記 (4)		商品開発と流通 (3)	ソフトウェア活用 (5)	課題研究 (3)											
情報処理 (3)	情報処理 (4)	財務会計Ⅰ (3)													
ビジネスコミュニケーション (3)	プログラミング (2)	ソフトウェア活用 (3)	プログラミング (3)	流通経済			情報処理								
LHR(1)		総合的な探究の時間(1)		ビジネス法規 (3)			ネットワーク活用 (3)								
		LHR(1)		選択 (3)	政治経済	生物基礎	原価計算	プログラミング [流経のみ]	マーケティング [情処のみ]						
		LHR(1)		LHR(1)											

☆1年情報処理で「情報の科学(2)」を代替

☆3年課題研究で「総合的な探究の時間(2)」を代替